

# 教 育 研 究 業 績 書

令和 5年 4月

氏 名 桑 原 徹 也

研 究 分 野		研 究 内 容 の キー ワード
社会福祉		児童福祉 児童虐待 社会的養護
教 育 上 の 能 力 に 関 す る 事 項		
事 項	年 月 日	概 要
1 教育方法の実践例		
① 体験型学習	平成 28 年 2 月	和歌山大学教育学部専門科目「特別支援研究」では、施設を訪問し、児童の福祉に関する社会的課題について、実践知の両面から理解を深めてもらうに、子どもへの関わり方と具体的な支援方を伝えた。講義形式だけでなく、事主体とした参加型学習や施設見学などアクティブラーニングにより、子どもの育への問題意識を高めた。
② 課題・レポートの活用による学習効果の向上	平成 31 年 4 月～ 現在に至る	和歌山信愛女子短期大学の「子ども家庭福祉」「社会福祉」「子ども家庭支援論」「社会的養護」では、授業の最後にレポート課題講義内容の理解定着を図った。さらに、ト内容から学生の疑問や関心を確認し、講義でそれに詳細な回答を行うことで、の更なる向上を目指した。
③ プレゼンテーションの導入	平成 31 年 4 月～ 現在に至る	和歌山信愛女子短期大学の「子ども家庭支援論」では、それぞれの保育実習先によるグループに分け、施設の機能と役割を学習した内容についてプレゼンテーションさせた。このような機会を設けることで、学習を促進し、発表方法やマナーにつに着けさせた。
④ ディスカッションの導入	平成 31 年 4 月～ 現在に至る	和歌山信愛女子短期大学の「子ども家庭支援論」「社会的養護」では、学生をグループでディスカッションする場を設定した。よって学生は、学習項目についてより多くの機会を得た上、多角的な視座から考え身に着けた。
⑤ 事例検討の導入	平成 31 年 4 月～ 現在に至る	和歌山信愛女子短期大学の「子ども家庭福祉」「社会福祉」「子ども家庭支援論」「社会的養護」では、時事ニュースや、支援現場を紹介し、理解を深めるとともに、学身近なものとした。
2 作成した教科書、教材		

<p>① 視聴覚教材</p> <p>② ワークノート</p> <p>③ ICT 教材</p>		<p>平成 31 年 4 月～ 現在に至る</p> <p>平成 31 年 4 月～ 現在に至る</p> <p>平成 2 年 5 月～ 現在に至る</p>	<p>和歌山信愛女子短期大学の「子ども家 「社会福祉」「子ども家庭支援論」「社 護」では、写真やVTR等で視覚的学習が ワーポイントおよびビデオ教材を作成 で活用した。実際の様子を見ながら学 ことでより鮮明なイメージが持て、教 達成度が向上した。</p> <p>和歌山信愛女子短期大学の「子ども家 「社会福祉」「子ども家庭支援論」「社 護」では、講義の重要項目を穴埋めす ワークを配布した。ワークを用いるこ 後の講義内容の理解を促進した。</p> <p>和歌山信愛女子短期大学の「子ども家 「社会福祉」「子ども家庭支援論」「社 護」では、フォームシートを活用し、 結果や解説、統計資料をオンラインで バックすることで、学生間の意見共有 向上した。</p>
<p>3 教育上の能力に関する大学 等の評価</p> <p>① 授業評価アンケート</p>		<p>平成 5 年 3 月</p>	<p>和歌山信愛女子短期大学の「子ども家 で採ったアンケートでは、それぞれの いて下記の通りであった。「授業の計 て」4.90（保育科平均 4.70）、「授業の いて」4.73（4.54）、「教員の教え方に 4.82（4.53）、「授業の成果について （4.57）とおおむね学生からの評価を る。他の担当科目について同様の評価を</p>
<p>4 実務の経験を有する者につ いての特記事項</p> <p>① 大学等から受け入れた実習 生に対する指導</p> <p>② 和歌山大学教育ボランティ ア学生に対する指導</p> <p>③ 和歌山市民生・児童委員研 修での講義</p> <p>④ 茨木市民生・児童委員研修での 講義</p> <p>⑤ 和歌山大学教育学部での講 義</p>		<p>平成 16 年 4 月～ 平成 30 年 3 月</p> <p>平成 17 年 5 月～ 平成 22 年 3 月</p> <p>平成 19 年 10 月</p> <p>平成 20 年 6 月</p> <p>平成 21 年 5 月</p>	<p>保育士資格または教員免許取得のため 施設において実習を行う学生に対して を担当し、児童養護施設の生活や支援 会的養護ケースの特徴や理解について を行ってきた。実習担当責任者として ルを作成して対応した。（対応した学生 和歌山大学と共同して施設児童の学力 り組み、学生の教育ボランティアによ 室を開催した。教室運営と学生指導 た。</p> <p>和歌山市民生・児童委員 30 名を対象に 養護について」の講義を行った。</p> <p>茨木市民生・児童委員 40 名を対象に「社会 について」の講義を行った。</p> <p>和歌山大学教育学部授業、特別支援地 究授業において、「現在の児童養護施設 教育的な課題と取り組み」をテーマに 施設の役割が生活自立だけでなく学齢 学習支援にもあることを示し、地域の 社の関係者、学生との研究協議を行った</p>

⑥ 児童養護施設ひまわり寮の職員研修担当	平成 23 年 4 月～ 平成 30 年 3 月	職員の専門性を向上するための研修として、職場内研修を企画・運営した。児童施設では、処遇困難な児童が多いため、児童の問題の理解と対応について研修を本として、研修担当者より講義を行い、その後、グループ討議を実施。研修テーマ「虐待防止」「子ども理解」「発達障害」「防災策」「感染予防」「人権」「食育」「法律」等多岐にわたる。
⑦ 和歌山弁護士会・和歌山県社会福祉協議会主催シンポジウムでのシンポジスト	平成 23 年 11 月	子どもの権利擁護をテーマに、児童養護施設での日常、子ども達の特徴、職員の支援、環境、職員の配置、地域協働等の課題に焦点を当てたディスカッションを行う。(関係機関及び一般参加者約 600 人) 大阪市立大学 治教授、和歌山弁護士会 赤木俊之 弁護士、養護施設こぼと学園 森本祐司 園長と共にディスカッションを行った。
⑧ 児童養護施設「紀南学園」職員対象研修での講義	平成 24 年 4 月	児童養護施設紀南学園の職員研修において「アミリーソーシャルワークと地域連携」をテーマに講義を行った。
⑨ 和歌山大学特別支援教育コーディネータフォーラムでのパネリスト	平成 24 年 7 月	第 40 回和歌山大学特別支援教育コーディネータフォーラムにおいて「児童福祉施設での学習と生活の支援」をテーマにパネリストとして参加。和歌山大学のテレビ会議による広域フォーラムで発表と指導を担当した。現在の児童福祉施設の課題に、大舎、小舎の施設規模から検討を加え、実践を行った。
⑩ 和歌山県児童養護施設協議会職員研修での実践報告	平成 25 年 12 月	研修担当責任者として企画・運営を担当し、実践報告者として「ひまわり寮での性教育実践」を発表した。児童の年齢別性教育プログラムの作成に至るまでの行程と、実践し、児童の発達に応じた性教育の必要性を述べた。
⑪ 和歌山県児童養護施設協議会職員研修でのシンポジスト	平成 26 年 1 月	研修担当責任者として企画・運営を担当し、「自立支援の在り方」と題するパネルディスカッションに全国児童養護施設協議会 桑原会長、NPO 法人トレス川口 充紀 理事長、和歌山県子ども・女性・障害者相談センター 談課 衣斐 哲臣 課長と共にシンポジストとして発表した。
⑫ 和歌山大学教育学部での講義	平成 27 年 2 月	和歌山大学教育学部の授業の一貫として「支援地域連携研究授業において、「児童における子どもの理解と支援～生活の質の向上～」をテーマに社会的養護ケースの特長と課題の抱える課題について、その要因と対応策を地域の教育や福祉の関係者、学生と共同で討議を行った。
⑬ 和歌山県児童養護施設協議会職員研修でのパネリスト	平成 27 年 2 月	研修担当責任者として企画・運営を担当し、グループ討議の発題者として「養育の在り方」をテーマとして和歌山大学教育学部 米澤 好史 教授と共にパネリストとして発表した。

⑭ 近畿児童養護施設研究協議会での発題	平成 27 年 6 月	分科会の発題者として「施設内虐待撲滅へみ」をテーマに「躰の在り方を共有する」る。大谷大学短期大学部 徳岡博巳教授、児童 親和学園 田中隆志施設長、児童養護施設 園 鈴木まや副施設長と共に発表した。	
⑮ 近畿児童養護施設研究協議会での発題	平成 27 年 6 月	分科会の発題者として「みんなが気持ちええやろ？～小規模施設の家庭的養護と労働者と点～」をテーマに「地域小規模児童養護施設 わぁ」の運営状況について発題。グループ討 ーパーバイザーとして参加。奈良学園大学奈 子短期大学 石田雅弘客員教授、児童養護施設 児院 大橋和弘院長、児童養護施設湘南学園 和久園長、アメニティーホーム光都学園 井 任、博愛社 勝原駿指導員と共に発表した。 児童福祉司任用後研修の一貫として「社会的 町村の役割」をテーマに要保護児童対策調整 整担当者研修での講義を担当。	
⑯ 児童福祉司任用後研修での 講義	平成 29 年 11 月～ 現在に至る		
⑰ 和歌山県子育て支援員研修 での講義	令和 2 年～ 現在に至る	基本研修にて 2020 年度「子ども家庭福祉」 年度「子ども家庭福祉」「子どもの障害 測定」2022 年度「子ども家庭福祉」「子 害」「対人援助の価値と倫理」を担当した。	
⑱ 田辺市学童保育所職員研修 会での講義	令和 5 年 3 月	「学童指導員に求められる子どもの権 保育」をテーマに参加者 60 名を対象に った。	
⑲ 紀美野町要保護児童対策地 域協議会研修会にて講義	令和 5 年 3 月	「社会的養護と市町村の役割」をテー およびグループワークを行った。	
5 その他			
職 務 上 の 実 績 に 関 す る 事 項			
事 項	年 月 日	概 要	
1 資格、免許 ① 社会福祉主事	平成 14 年 3 月	福祉事務所現業員として任用される者 される資格（任用資格）	
2 特許等  なし			
3 実務の経験を有する者につ いての特記事項			

① 児童養護施設でのケアワーク（児童の生活支援担当）	平成 14 年 4 月～ 平成 29 年 3 月	児童虐待等のために家庭から離れ、情動面でのケアを要する子どもの個別支援を立てて生活支援を行ってきた。発達障害など問題行動を伴う児童の処遇を体験している。班長及び課長の職において指導員等へのスーパーバイズを担当した
	平成 15 年 4 月～ 平成 17 年 3 月	児童養護施設旭学園 小学生女子部担当（約 40 名を担当）
	平成 17 年 4 月～ 平成 19 年 3 月	児童養護施設旭学園 幼年部担当 幼児部から小学部への環境変化による不安の軽減と発達段階に応じた養育を目指し、移行期間として小学 1・2 年部を設置し担当する。通学する小学者との連携体制を強化した。（約 20 名を担当）
	平成 19 年 4 月～ 平成 22 年 3 月	児童養護施設旭学園 小学部女子担当 小学 3～6 年の女子児童への生活支援とする職員へのスーパーバイザーとして担当する。（職員 8 名、児童約 50 名を担当）
	平成 22 年 4 月～ 平成 23 年 3 月	児童養護施設ひまわり寮 児童指導員 30 名規模施設にて 1～18 歳の児童の生活支援を担当。また、施設全般の生活環境や支障の整備を行った。 （ケース担当として、1 歳児、5 歳児、障害児（3 名）の児童を担当）
	平成 23 年 4 月～ 平成 29 年 3 月	児童養護施設ひまわり寮 中学高校生班 社会自立を控えた児童に対し、進学や就職支援のリーディングケアを実施した。進学では児童養護施設では初となる国公立大学者を輩出した。就職についても、担当の児童が希望する就職先に就くことができた。また、班長として担当する職員への助言を行った。（職員 19 名 児童約 40 名を担当）
② 被虐待児童への個別アプローチ	平成 16 年 4 月～ 平成 22 年 3 月	児童相談所と連携し、人格や問題行動を有する被虐待児童の成育歴や背景を調査し、行うなどにより個別指導計画を作成し安定化を図ってきた。（約 50 人）
③ 広報担当業務	平成 18 年 4 月～ 平成 21 年 3 月	児童養護施設ホームページを作成する 広報誌を作成して、新聞社へ原稿を投函し、どの広報活動を行ってきた。
④ 家庭支援専門相談業務	平成 23 年 4 月～ 平成 30 年 3 月	入所児童の保護者及び地域の里親の相談を受け、養育相談及び助言を行ってきた。（約 100 名を担当）
⑤ 未成年後見人手続き業務	平成 23 年 7 月～ 平成 30 年 3 月	未成年後見人手続き業務担当者として財産管理報告の調査・申請を行った。以て財産管理報告を作成した。（2 名を担当）
⑥ 新任職員指導担当業務	平成 24 年 4 月～ 平成 30 年 3 月	新任職員指導担当責任者として下記のマニュアルを作成した。 ① 新任職員育成マニュアル ② 段階的支援共有マニュアル ③ 問題発生時初期対応マニュアル ④ 性教育マニュアル ⑤ 躰共有マニュアル ⑥ 防災マニュアル ⑦ 預り金管理マニュアル

<p>⑦ 福祉サービス第3者評価担当業務</p> <p>⑧ 進路担当責任者業務</p> <p>⑨ 退所児童アフターケア担当責任者業務</p> <p>⑩ 社会福祉法人全国社会福祉事業協会機関誌への執筆</p> <p>⑪ 和歌山県広報誌「県民の友」インタビュー</p> <p>⑫ 施設運営に係る主務担当業務</p>		<p>平成24年4月～平成30年3月</p> <p>平成24年4月～平成30年3月</p> <p>平成24年4月～平成30年3月</p> <p>平成26年8月</p> <p>平成28年11月</p> <p>平成29年4月～平成30年3月</p>	<p>施設の書類管理責任者として、各種管理・合理化を図る。評価機関からA評価する。</p> <p>児童の希望実現に向け、学校・児童関係機関と連携して施設退所児童の進行的な訪問を行ってきた。(約20名を担当)平成24年度には児童養護施設からは県下初となる進学児童を送り出した。奨学金・奨学金設立など、経済的な支援ができる体制を行った。</p> <p>施設を退所した児童への定期的な訪問を行うとともに相談受付体制を整備した。(担当)</p> <p>児童養護施設で暮らす子ども達の①家の中での養育②地域の中の一帯として生活の基盤を構築③社会的自立促進を目指し、自立支援の場を確保し、子ども達の自立した生活のサポートを目指す活動を実施し、社会福祉法人全国社会福祉事業団協議会「全事協だより」74号P7「児童虐待通告の啓発をテーマとしてインタビューを受ける。通告に対し、躊躇を感じていると思われるが、困難を抱えている家庭に介入することにより、子どものみでその家庭全体を守るためのものである」として、子どもの成長を地域で見守っていくよう提示した。和歌山県広報誌「県民の友」巻頭</p> <p>施設運営に関すること  施設の予算・執行・決算に関すること  職員の労務管理に関すること  人権擁護推進者  安全対策推進者  災害対策推進者  衛生推進者  施設サービス向上委員会の統括（苦情処理委員会、給食委員会、セクハラ防止委員会、禁煙委員会、感染防止委員会）に関すること  情報公開に関すること  文書管理に関すること  各種調査報告に関すること  職場研修に関すること  エリア間ネットワーク構築に関すること</p>
<p>4 その他</p> <p>① 引用実績 研究報告「被虐待児の援助に関わる学校と児童養護施設の連携」</p> <p>② 引用実績 紀要論文「インクルーシブ教育システムの推進に関する一考察」</p>		<p>平成21年</p> <p>平成26年12月</p>	<p>保坂亨(2009)「被虐待児の援助に関わる児童養護施設の連携」子どもの虹情報ジャーナル(日本虐待・思春期問題情報研究会)平成21年度研究報告書 1頁で引用</p> <p>若松昭彦(2014)「インクルーシブ教育の推進に関する一考察」広島大学大学院教育学部附属教育実践総合センター学校教育学研究 20, 183-194, 188頁で引用</p>

研 究 業 績 等 に 関 す る 事 項

著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概 要
(著書)  なし				
(学術論文) 1 現在の児童養護施設における教育的な課題と旭学園の取り組み	共著	平成30年9月	和歌山大学「和歌山大学教育学部教育実践センター紀要」第19号 P1～8	児童養護施設に入所する小学生の基礎学力向上を目指し、地域大学生や小・中学校教員らの協力を得て施設内補習を実施した結果を報告した。被虐待児童に見られる自己肯定感の低さと、それに起因した、学習への諦めや持続集中の困難な子どもの例を挙げ、学習に拒否的な児童に対するアプローチの実践例を紹介した。また、子どもから学習への同意を得るため、支援者側と取り交わす提案交渉を紹介し、子どもの主体性を導くことの重要性を示した。学習体系について、学習ブースを教科毎に巡る「屋台方式」を設定した事例を報告した。 共同研究者 桑原徹也、田中存、中村道雄、江田裕介
2 児童養護施設入所児童の学力向上に対する取り組み-地域の大学との連携-	共著	平成22年6月	日本児童学会「児童研究」第19号 p77～83	児童養護施設の入所児童に対する学習指導について地域大学（主に教育学部の学生チーム）と連携した結果について取りまとめた。実践結果から、子どもの学習意欲の向上に伴い、行動面での落ち着きが顕著に表れたことを示し、学習指導と生活援助は不可分であることを報告した。 共同研究者 桑原徹也、田中存
3 児童養護施設における思春期児童の行動上の問題とリスクアセスメントに関する考察	共著	平成29年3月	和歌山大学学芸学会「学芸」第63号 P169～173	社会的養護下の子どもには発達障害や愛着障害を持った児童が多く存在する。また、これらの子ども達は、その障害特性により、周囲の理解を得られずに人間関係の構築を妨げられる傾向が強い。特に思春期は身体的な変化だけでなく、心理的な変化を迎える時期であり、反社会的な行動や、非社会的な行為が発生しやすい。児童の行動上の問題対応には的確な状況把握と支援者間の共通理解が不可欠とるが、養育・教育現場では職員や教師の主観的な評価がなされていることが多い。子どもの行動上の問題について、障害特性と養育環境のリスク因子をまとめ、養育現場での評価について、標準化された尺度活用の必要性を考察した。 共同研究者 桑原徹也、江田裕介
4 児童養護施設に入所する思春期児童	単著	平成30年9月	和歌山大学審査修士論	児童養護施設に入所する中学生以上の児童を対象に日本語版 TRF と、日本語版

桑原 徹也

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
<p>5 児童養護施設退所児童支援のための実態調査</p> <p>6 和歌山県の社会的養護関係施設における性教育の現状と課題 —入所児童への包括的性教育の導入に向けた実態調査（その1：全体の概要）—</p>	<p>共著</p> <p>共著</p>	<p>平成31年3月</p> <p>令和5年</p>	<p>文</p> <p>和歌山信愛女子短期大学「信愛紀要」第59号 P59～70</p> <p>わかやま子ども学総合研究センタージャーナル P21～30</p>	<p>DSM-5 対応 Conners3 教師用の2種類の評価尺度を用いて、心理要因と行動上の問題の実態を明らかにした。結果、内向性と外向性に広く相関がみられることから、施設に入所する児童には、素行症や反抗挑発症といった表面的な問題に隠れて、抑うつや不安といった内向的な課題が混同することを示した。また、入所時期と児童の情緒と行動特徴には関連がないことから、幼少期から入所する児童には生活上の対処行動として問題が表面化しにくいことが示唆されたが、入所する児童には潜在的な課題を抱えていることを認識しておく必要があることを報告した。</p> <p>和歌山県内の児童養護施設を退所した児童を対象に、アンケートを送付し、退所後の社会適応について調査を行った。調査の結果から、多くの児童に様々な障壁が見られた。しかし、孤立しているケースも少なくなく、その課題への対処を抱え込んでいる実状が明らかになった。このことから、退所後のアフターケアの体制を施設全体の取り組みとして実施していく必要性を唱えた。</p> <p>共同研究者 桑原義登、桑原徹也</p> <p>和歌山県内の社会的養護関係施設および障害児入所施設の性教育の実態を明らかにするために、質問紙調査結果の分析と考察を行った。結果、施設種別によって性教育の実施に差異があることや性教育プログラムの未構築、性教育体制の脆弱さなどが認められた。このことから、UNESCOの「国際セクシュアリティ教育ガイダンス」を性教育の指針に位置づけ、ガイダンスの基準を満たした包括的性教育プログラムを構築していくことが、入所児童の自立支援にとって有益であることを示唆した。</p> <p>共同研究者 岩田智和、桑原義登、桑原徹也</p>
<p>(その他)</p> <p>1 社会福祉法人全国社会福祉事業協会機関誌への執筆</p>	<p>単著</p>	<p>平成26年8月</p>	<p>社会福祉法人全国社会福祉事業団協議会「全事協だより」74号</p>	<p>児童養護施設で暮らす子ども達の①家庭的環境の中での養育②地域の中の一帯としての関係性構築③社会的自立促進を目指し、分園を設置。自己決定・自己選択の機会を多く提供し子ども達の自立した生活のサポートを目指している活動を</p>

桑原 徹也

研 究 業 績 等 に 関 す る 事 項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概 要
2 和歌山子どもの虐待防止協会会員誌への執筆	単著	平成29年8月	P7 和歌山子どもの虐待防止協会「ニューズレター」38号 巻頭言	報告した。 「子どもを中心とした社会的養護とは」をテーマに、社会的養護体制が施設養育から家庭的養育へと転換を迎えていることを踏まえ、施設に入所する児童やその保護者、更には地域のニーズを整理した。施設で行われている家族再統合が、必ずしも親子が一緒に住むことではなく、親子が親子であり続けるための関係の再構築を目指したものであることを報告し、子どもの養育が親の責任のみで行われるのではなく、施設や里親を子どもの養育の資源として、地域が協働した養育体制の整備の必要性を示した。また、施設に求められるニーズが被措置児童への支援のみではなく、一時的な保護や短期利用など地域の子育て支援の拠点としての存在意義を示した。